

2019年3月期 第2四半期決算説明会
主な質疑応答

- Q: 上期計画に対する事業別の売上高・営業利益遂行状況はどうだったのか。
- A: 売上高について、全体では計画を下回ったが、ドキュメントソリューションにおいて低採算商談の削減に意志を持って取り組んだことが要因。イメージングソリューションは計画通りに進捗。ヘルスケア&マテリアルズソリューションは、グラフィックシステム事業で刷版材料の需要減、記録メディア事業で在庫調整等の影響により計画を下回ったが、他事業で挽回し全体では順調な進捗となった。
- 営業利益について、全体では計画達成となった。特にドキュメント事業は構造改革効果もあり計画を大きく上回った。イメージングソリューションでは、宣伝費の先行投資等あり上期は計画を下回ったが、下期には挽回可能だと見込んでいる。
- Q: イメージングソリューションの営業利益について、上期実績 216 億円に対して下期計画 384 億円と大幅な増益を見込んでいるが、その要因を教えてください。
- A: 先ず Instax の販売について、世界的なシンガーソングライター、ミュージシャン兼プロデューサーであるテイラー・スウィフトさんを起用した大型プロモーション効果による増販を見込んでいる。当プロモーションは、メイン市場の米国では11月から、その他地域でも第3四半期以降に本格展開する。次に電子映像事業について、第2四半期は9月末のフォトキナ(※)を見据えた買い控えの影響を一部受けたが、9月から販売を開始したミラーレスデジタルカメラ「FUJIFILM X-T3」の販売が非常に好調。また、11月から中判ミラーレスデジタルカメラ「FUJIFILM GFX 50R」の販売を開始するなど、増益効果を見込んでいる。
- (※) 9月26日から29日までドイツのケルン市で開催された世界最大の写真・映像機器の展示会
- Q: 富士ゼロックスの構造改革の進捗状況を教えてください。
- A: 非常に順調に進捗している。今年度は、構造改革効果・費用をそれぞれ 270 億円、250 億円見込んでおり、上期の効果実績は計画通り 85 億円となった。一方、費用実績は 51 億円に留まったが、一部施策の実施時期を上期から下期に見直したことが影響している。通年では、計画通りの構造改革費用及び効果の発生を見込んでいる。
- Q: ゼロックスコーポレーションとの統合計画についてアップデートがあれば教えてください。
- A: 経営統合の差し止め仮処分に関する上訴審判決において、当社の主張が認められ、仮処分命令を撤廃する判決が下った。当社としては1月末に発表した統合案がベストであるというスタンスに変化はない。

以上